

授業科目名	環境法 Environmental Law
授業科目群	展開・先端科目
標準学年	2・3年次
必修・選択の区別	選択
開講学期	前期(隔年開講)
開講曜日・時限	集中
単位数	2単位
担当教員名	山下竜一(Yamashita Ryuichi)
授業の目的	環境法の理念や個別の法制度を学ぶと共に、環境をめぐる法的紛争の解決の仕方を身につけること
履修条件	行政法や民法をひとつとおりに学んだ学生が履修することが望ましい。
到達目標	カリキュラムマップ、到達目標科目対応表及び学修ロードマップを参照のこと。
授業の概要	1回～10回は、環境法の理念や個別の法制度の仕組みを学ぶため、教科書の概要をレジュメを使って講義する。11回～15回は、環境法の重要論点を確認し、環境をめぐる法的紛争の解決の仕方を学ぶため、司法試験の過去問を使いながら、各自、論点を整理・報告してもらう。 This course examines Environmental Law.
授業計画	第1回 ガイダンス、環境法の基本構造(1章～4章) 第2回 環境訴訟・環境紛争処理(5章) 第3回 環境基本法、循環基本法(6章、7章) 第4回 環境影響評価法(8章) 第5回 水質汚濁防止法(9章) 第6回 大気汚染防止法(10章) 第7回 土壌汚染対策法(11章) 第8回 廃棄物処理法(12章) 第9回 容器包装リサイクル法(13章) 第10回 自然公園法(14章) 第11回 司法試験過去問の検討(平成18年、19年) 第12回 司法試験過去問の検討(平成20年、21年) 第13回 司法試験過去問の検討(平成22年、23年) 第14回 司法試験過去問の検討(平成24年、25年、26年) 第15回 司法試験過去問の検討(平成27年、28年、29年)
授業の進め方	1回～10回は、講義形式で行うが、受講生は事前に教科書を読んでおくこと。11回～15回は、出題趣旨等を参考にしながら、皆に司法試験の過去問を実際に解いてもらい、論点を発表してもらう。
教科書及び参考図書等	教科書:北村喜宣『環境法第4版』(弘文堂、2017年)、参考書:①淡路剛久他編『環境法判例百選第2版』(有斐閣、2011年)、②越智敏裕『環境訴訟法』(日本評論社、2015年)
試験・成績評価等	最終試験の成績(70%)に報告や討論の中での発言の積極性や論理性(30%)を加味して評価する
事前学習	
課題レポート等	

オフィスアワー	授業終了後に受け付ける。
その他	